

胃ろうから常食へ

～2つの事例から～

高浜市
特別養護老人ホーム高浜安立荘
介護員 土屋菜美

<施設概要>

平成5年開設。定員100名。多床室、従来型の特養。グループケアを行っている。平成21年から自立支援に取り組み、23年にオムツゼロ達成。その他にもターミナルケア、個浴、回想法などに取り組んでいる。

<取り組んだ課題>

- ・介護力向上講習会の中で常食が一番安全な形態であること、胃ろうの方も常食を食べられるようになることを知り、取り組んでいくこととなった。
- ・当施設も胃ろうの方に経口移行のアプローチを行ってきたが、あまり食事形態への意識はなく、経口摂取ができるまでで満足していた。
- ・施設全体の常食の割合が低かった。

<具体的な取り組み>

- ・対象者 胃ろう造設された状態で入所された2名

【事例1】K様 54歳 女性 要介護5

《胃ろう歴・生活歴》

平成19年5月くも膜下出血で倒れる。障害が残り食事が摂れず胃ろう造設となる。病院で5年寝たきりの生活を送る。右半身麻痺。廃用症候群。

《入所時の状況》

平成24年5月入所。発語なく、うなづく程度。

《常食までの経過》

- ・5/1 入所初日からオムツを外しポータブルトイレ誘導開始。口腔ケア開始。
- ・5/9 水飲みテスト実施し、嚥下反射あり。
- ・5/10 毎日ポカリゼリーの経口摂取開始。
- ・5/23 ゼリー食のおやつ開始。咀嚼、嚥下良好。
- ・5/24 昼食のみ軟飯・ソフト食提供開始。食堂では車椅子から椅子に移り、自力摂取を促す。離床時間も徐々に伸ばす。この頃から表情増え、笑顔が多くなる。
- ・6/3 毎食軟飯・ソフト食、昼食は常食を開始。
- ・6/15 毎食常食となるが、徐々に摂取量が減少。
- ・6/25 夕食のみ粥・ソフト食に変更。
- ・6/28 施設で行う居酒屋行事に参加し、握り寿司を食べ、ビールを飲む。もう一杯勧めると笑顔。その後も毎月参加する。
- ・7月よく嚙まず丸飲みし、ご飯やパンを喉に詰まらせることあり。咀嚼訓練にあられやあたりめを提供していくこととする。
- ・10/12 毎食常食になる。
- ・1/3 誕生日外出で市内の居酒屋へ行き、ビールを飲み、焼き鳥を食べる。

【事例2】I様 62歳 男性 要介護5

《胃ろう歴・生活歴》

平成21年脳出血で入院、胃ろう造設。病院で療養生活を送る。

統合失調症、てんかん、うつ病あり。

《入所時の状況》

平成24年5月入所。全く発語なく上下肢拘縮あり。

《常食までの経過》

- ・5/27 水分経口摂取開始。経口摂取を始めると3年ぶりに発語が聞かれ、会話も可能となる。
- ・6/7 ゼリー食のおやつ開始となる。
- ・6/28 毎食軟飯・ソフト食開始。咀嚼する力は弱いですが食欲あり、摂取良好。
- ・8/1 昼食のみ常食に変更。
- ・9月頃より咀嚼、嚥下ができなくなり、活気もなくなる。食事形態を下げる。介護力向上講習会で暑い時期の水分不足と指摘を受け、胃ろうから水分と栄養を注入するようになり、徐々に咀嚼ができるようになる。
- ・12/12 昼食のみ常食に変更。
- ・1/25 毎食常食になる。

<活動の成果と評価>

- ・外食で好きな物が食べられ、種類の幅も広がった。
- ・表情が増えたり、会話ができるようになった。
- ・K様は最近では声を出して笑うこともある。元気だった頃に好きだったお酒を5年ぶりに飲めた。
- ・水分の重要性を再認識できた。

<施設全体での変化>

	21年3月	22年3月	23年3月	24年3月	25年3月
(人数)	(96人)	(99人)	(97人)	(96人)	(98人)
常食人数	19人	27人	47人	50人	61人

<今後の課題>

- ・胃ろうから経口移行できる方を増やす。
- ・常食の割合を上げていく。
- ・毎月行方委員会で各グループのデータや成果、課題を共有し、継続して取り組んでいく。

<参考資料など>

全国老協・自立支援介護ブックレット・シリーズ

①水 ②歩行・排泄 ③認知症ケア ④食事